



## シリーズ 企業訪問

# 株式会社 日本スライスセンター

～優れた切断加工技術と自社開発能力を併せ持つ、  
モノづくりのプロフェッショナル企業～

### 企業概要

代表者：代表取締役 菅波利光      T E L：0246-28-2241  
所在地：いわき市常磐上矢田町叶作1番地      F A X：0246-29-2185  
設立：平成16年8月      U R L：http://n-slice-c.com/  
資本金：2,000万円      E-mail：info@n-slice-c.com  
従業員：33名  
事業概要：ワイヤースライサー設計・製作及び切断加工など



代表取締役  
菅波利光 (すがなみ としひこ)

テレビは情報入手や娯楽の手段として私たちの生活には欠かせないものです。そしてテレビには、映像を映し出すために、電子回路や基板など様々な部品が組み込まれています。本県にも多くの部品工場があり、多くの技術者が部品製造に携わっています。

いわき市の株式会社日本スライスセンターは、液晶ディスプレイに関する部品の生産や、産業用機械の設計・製作等を行っている企業です。

今回の取材では、菅波社長より、当社の高い技術力による製品製造や事業にかける熱い思いをうかがいました。



会社風景

○創業について教えてください。

当社は平成16年に「スライス加工を取り扱う日本の中心になろう。」という思いを込めて(株)日本スライスセンターとして設立しました。母体となったのは家業としていた父の会社であり、私は大学卒業後に父の会社で一緒に仕事をしていました。

いわき市では、1970年代まで石炭が採掘されていました。私の祖父と父親は、炭鉱で掘削を行う際に使用するポンプやコンプレッサー等の販売や保守点検・整備作業を行っていました。炭鉱が閉鎖された後は、市内にある大手工場を取引先とし、工場で使用される製造用機械の販売やメンテナンスを行いました。

その後、自分たちで機械の製造・販売を行いたいと考え開発を始めたところ、取引先から機械の性能を認められ、様々な機械の発注を受け製作や加工を行うようになりました。そして製品の中で液晶テレビ関連のスライス加工の取扱が順調になってきたことで、父の会社を発展解消し当社を設立しました。



ワイヤースライサーマシン

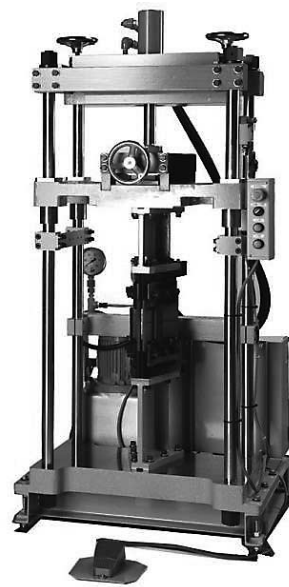
○御社の主な事業内容について教えてください。

フォトマスクという液晶ディスプレイ製造に欠かせない部品製造の一翼を担っています。その他に、工場などを取引先として、工業用機械のフレーム、パーツ製作用の小型機械等、様々な製品を製造しています。

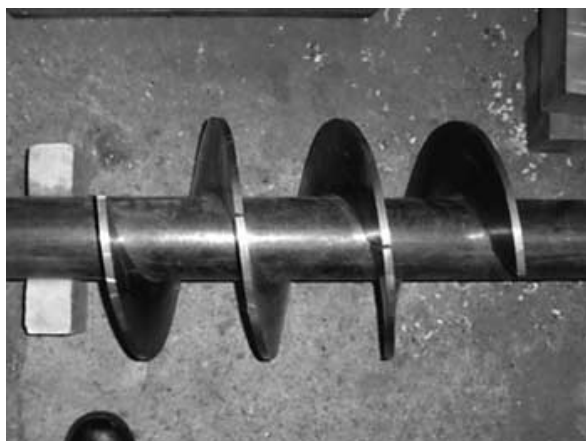
フォトマスクとは、簡単に言うと露光装置を使って液晶ディスプレイで映像を映し出す基板を造り出す際のネガのようなものです。その工程で転写された部品が液晶テレビで精密で綺麗な映像を作り出しています。テレビ以外では、スマートフォンやタブレットなどの画面表示にも使われています。また、原材料である石英ガラスは半導体関連にも使われています。

工業用フレームとは工業用機械の筐体や架台部分になります。工場等を取引先として納品しています。一般の皆さんが普段目にすることはなかなかないと思います。

パーツ製作用の機械としては、最近では、スクリュー羽根曲げ成形機を手がけました。土建業、



スクリュー羽根曲げ成形機



羽根曲げ機で製作したスクリーユ羽根

採掘業、食品工場、化学工業など幅広い分野で使用される、物資搬送用のスクリーユコンベアの羽根板を誰でも簡単に均一に製造できます。この機械の開発製造については、平成21年度に東北経済産業局より「新連携支援事業」に認定されました。

「あればいいよね」という、まだ世に出ていない新しい物も手懸けていきたいと思っています。

#### ○御社の強みはどのような点でしょうか。

当社が自信を持っているのは、自分達で製造用の機械を設計・製作できる技術力の高さです。例えば、石英ガラスを切断する際に使用している機械はスライサーマシンといいます。工場内で使用しているこの機械は、自分たちで設計・製作したものです。もちろん、販売実績もあります。

テレビ画面が大型化するのに対応して、機械も「より大きなものを」と開発した結果、現在では9台所有しています。最大のものでと、幅2,000ミリ、高さ1,650ミリの石英ガラスを切断することができます。これは国内最大級のものとして自負しています。そして、スチールワイヤーを稼働させる部分には、私たちが特許を取った技術も使用しています。

その特許を応用して、太陽光発電の発電パネルに使用するシリコン材を切断する試作機も開発しました。太陽光発電は、再生エネルギーの一つとして現在大きく注目されており、この分野に携わることにより新しい市場の開拓が期待できます。

#### ○企業理念や日頃心がけていることを教えてください。

企業理念というほどのものではないですが、自分だけが儲けるのではなく、取引先にも儲けてもらう、いわゆる「ウィン＝ウィン」の関係を築くという事を常に考えております。そのためには、「取引先が儲けるにはどうしたらいいか、どのような機械や製品であれば取引先も儲けることができるのか、また、それを自分たちの利益につなげるにはどうしたらいいか」という事を常に意識しています。



ジルコニアレンガを切断したサンプル



石英ガラスを切断したサンプル



クロスカットマシンにて切断したサンプル

○人材育成についてはどのように取り組まれていますか。

工場内の機械は汎用機械であり、一定レベルの製品は誰でも作れますが、それ以上の高度な製品を作るには職人の持つ技術も組み合わせないと良い製品が生まれません。従って、新入社員には、先輩社員がマンツーマンで徹底的に指導しています。

手前味噌にはなりますが、私自身が入社した際には、言葉は悪いですが「先輩から技術を盗む」つもりでやってきました。若い社員には、今後もっと貪欲に自分から仕事を覚えてもらいたいと考えています。そして「自分たちが会社を背負っていくのだ」という強い気持ちを持って頑張ってもらいたいと思います。

○3月11日の大震災とその後の対応についてお聞かせください。

震災当日は、現場の的確な指示により社員全員が何事もなく無事でした。そして会社も建物や工場設備の被害は少なく、操業を続けるには問題ない状態でした。

しかし、市内はあちこちで大変な被害が発生しており、またその後の原発事故で多くの市民が避難し始めたことから、操業再開は不可能と判断し当面の間休業としました。

私はいわき市に残り、工場設備の点検や調整を行いながら、従業員にこちらの状況を伝えるなど定期的に連絡を取り続けました。3月28日と比較的早い時期に操業を再開できたのは、設備の被害が少なかったことは勿論のこと、避難していた従業員とコミュニケーションが取れていたことが大きかったです。

○今後の展望や抱負についてお聞かせください。

現在、国内の製造業は円高や人件費といった製造コストの問題から、海外に製造拠点を移すという会社が増えています。いわき市でも海外移転を考えている地元企業の工場がいくつかあるようです。

海外に移転すれば、コスト面では安く製品を作れることで楽になりますが、今まで蓄積してきた技術の伝承が途絶えてしまい、日本国内の技術力が落ちてしまいます。コスト管理も大切ですが、私たちは、モノづくりの魂を大事にして、今まで培ってきた我が国の技術力を守っていきたいと思っています。

そして商品開発では、当社の技術を生かして、現在のフォトマスク材製造に続く将来の経営の柱となる製品や機械を開発していきたいと思っています。

【インタビューを終えて】

社長から、事業内容や技術について説明していただく中で、震災や原子力災害にも負けずに頑張るエネルギーの源泉が、当社の技術力に対する自信と誇りであるという事が強く伝わってきました。国内工場の海外への移転が懸念される昨今ですが、「これからもいわきで技術を伝承し頑張っていく」という強い思いが感じられ、今後一層の活躍が期待できる取材となりました。

(担当：丹治)